

刊行にあたって

本書は、筆者が開発し、実践している直視の顕微鏡応用テクニック「スリーステップ秋山メソッド」について書かれている。

スリーステップ秋山メソッドは、“新しい”概念に基づいたテクニックであり、世界レベルの、非常に高い精度の歯科治療を実現できる。

従来の“古い”顕微鏡歯科の考え方では、顕微鏡のメリットは高倍率にあるとされている。一方、スリーステップ秋山メソッドでは最低倍率でも大きなメリットがあると考えます。この画期的なテクニックは世界初であると自負している。

本書は「スリーステップ秋山メソッド」を学びたい読者に向けて書かれているのだが、“顕微鏡難民”を救いたいというもう一つの目的もある。

「顕微鏡で治療ができると教えてもらい購入したが、まったく使えずにいまはホコリを被っているという歯科医師」を、筆者はそう呼んでいる。わが国の高い顕微鏡普及率とは裏腹に、購入したものの、その臨床応用に悩む歯科医師が多く存在している。

そこで、そうした“顕微鏡難民”が、真の意味で顕微鏡を使いこなせるように、正しい情報を整理するとともに、これ以上“顕微鏡難民”を生み出さないために、顕微鏡を購入する前に知っておくべき情報も、本書には収載している。

そのため、本書はこれから顕微鏡を購入しようと考えている歯科医師にも、すでに顕微鏡を持っていて悩んでいる歯科医師にも役立つことができる内容になっている。ノウハウは普遍的なものなので、歯科医師のみならず、歯科衛生士の手にも届いてほしい。

本書の記載方法について、説明を加えておく。

SNS全盛時代の読者に向けて、1章・2章の項目では、内容を解説する前に、冒頭で要点（伝えたいこと）を示している。要点はわかりやすいように箇条書きにしている。そして、その後の文章で要点について解説している。筆者としては、読者に理解してもらうことが使命と考えて、そのような記述形式にこだわった。

本書の半分はエビデンスベースだが、残りの半分は物語的な話“Narrative-based Medicine”によって書かれている。紹介しているエピソードはすべて実話である。

なかには辛辣な言葉も出てくるかもしれないが、他者を批判するために書いたものではなく、わが国の歯科医師が本当の意味でレベルアップするための、正直な主張だと受け取ってもらえれば幸いである。

2023年12月

秋山勝彦